

# 自治医科大学看護師特定行為研修センター年次報告



2024 年度

2025 年 6 月

自治医科大学看護師特定行為研修センター

Jichi training center for nurse designated procedures (J-ENDURE)

# 目次

## I 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 看護師特定行為研修センター概要……………1
2. 看護師特定行為研修センター関連委員会……………2
3. 看護師特定行為研修センター教職員概要……………3
4. 看護師特定行為研修センター協力施設概要……………3
5. 看護師特定行為研修センターの主な取り組み等……………3
6. 入講生、修了生の概要……………4

## II 看護師特定行為研修センター活動報告

- 1) 教育報告……………8
- 2) 研究報告……………34

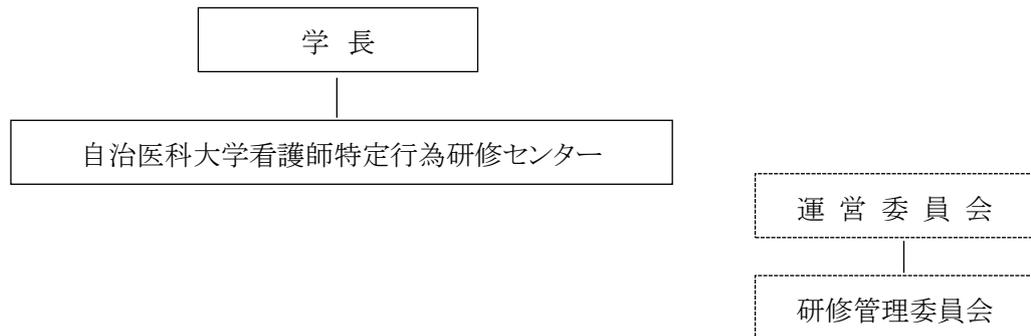
## I 看護師特定行為研修センターの事業概要

## 1. 特定行為研修センター概要

特定行為研修センターは、自治医科大学が保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)第37条の2に基づく指定研修機関として特定行為研修を適切に実施するため設置された(自治医科大学看護師特定行為研修センター設置規程 昭和27年規程第59号)。

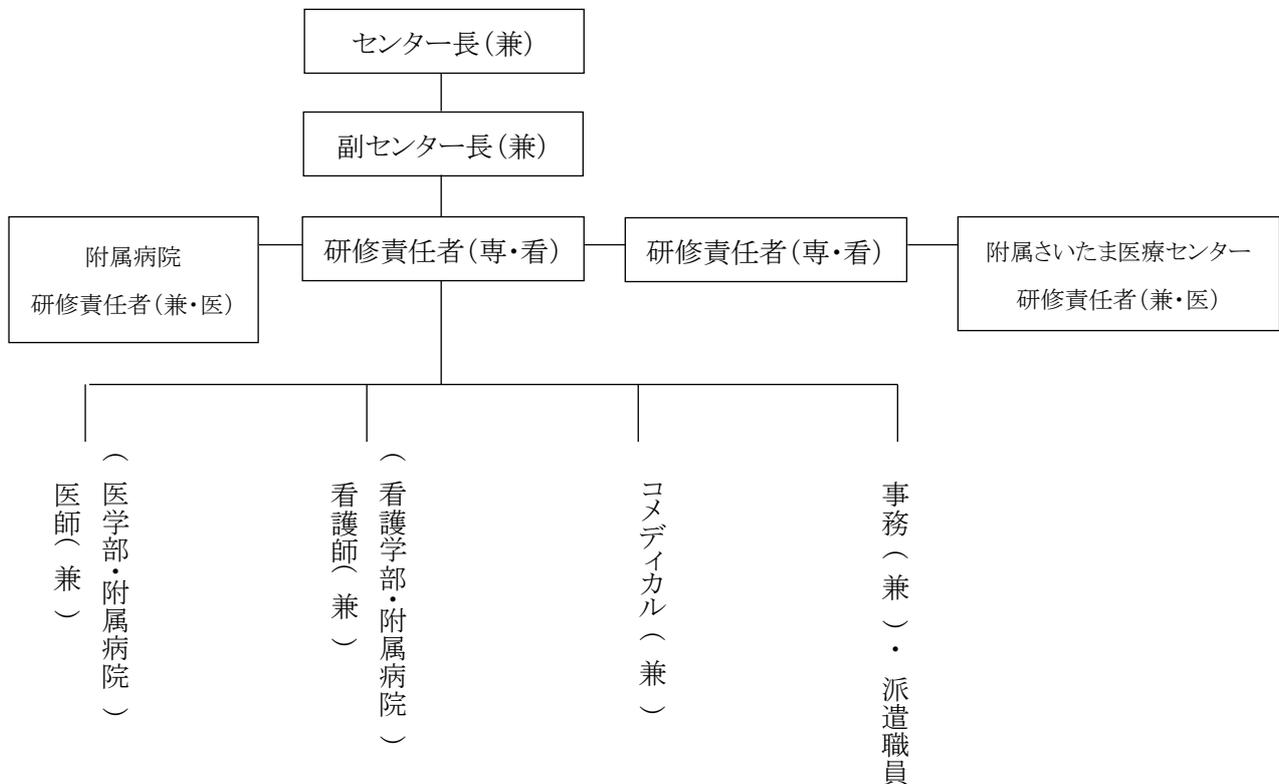
### 組織体制

大学における位置付けは、大学の組織とし、学長の直属機関とする。  
センターの運営を円滑に行うため「運営委員会」を設置する。



### センターの構成員

センター長、副センター長、研修責任者(うち1名は専従)、指導者・指導補助者及びその他の職員で構成する。



※附属病院とは、附属病院と附属さいたま医療センターを示す

## 2. 特定行為研修センター関連委員会

特定行為研修センターは、下記の委員会を設置し、管理・運営や教育・評価内容の妥当性などを検討し、審議している。

- ・特定行為研修運営委員会(2ヶ月に1回の年6回開催)
- ・特定行為研修管理委員会(年2回、9月及び3月に開催)
- ・特定行為研修安全管理委員会(必要時 臨時開催)
- ・科目担当者会議(年6回)

### 1) 特定行為研修運営委員会

特定行為運営委員会の構成員はセンター長を中心に 17 名で構成され、主にセンターの運営を円滑に行うための以下の事項を審議する。

- (1) 施設及び設備の整備に関すること
- (2) 適切な指導体制の確保に関すること
- (3) 医療に関する安全管理のための体制の確保に関すること
- (4) 規程等の整備に関すること
- (5) 自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会及び自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会に関すること
- (6) その他、特定行為研修の実施に関する必要なこと

### 2) 特定行為研修管理委員会

特定行為研修管理委員会には外部委員を含め 15 名で構成され、以下の審議を行う。

- (1) 特定行為区分ごとの特定行為研修計画の策定に関すること
- (2) 2 つ以上の特定行為区分について、特定行為研修を行う場合の特定行為研修の相互間の調整に関すること
- (3) 受講者の履修状況の管理に関すること
- (4) 修了の際の評価などに関すること
- (5) その他、特定行為研修の実施及び管理に関すること

### 3) 特定行為研修安全管理委員会

特定行為研修センター専従研修責任者の招集により、事故等報告書が提出された場合に、研修責任者ならびに該当科目の指導者等の関係者で構成され、安全管理に関する審議を行う。

### 4) 科目担当者会議

研修生の学習進捗状況や教育内容に関する情報の共有を行う。科目担当者会議は看護学部および看護師特定行為研修センター教員を中心に特定行為研修に関わる看護学系教員で構成されている。

特定行為研修運営委員会と特定行為研修管理委員会は遠隔会議とした。また、特定行為研修安全管理委員会を3回開催した。

### 3. 特定行為研修センターの教員概要(R7.2 現在)

#### 1) 共通科目

共通科目では指導者として 38 名、指導補助者として 10 名が教育に関わった。

年度	指導者	指導補助者
2024 年度	38 名	10 名

#### 2) 区分別科目

区分別科目では指導者として 141 名、指導補助者として 51 名が教育に関わった。客観的臨床能力試験の外部評価者は、14 名であった。

年度	指導者	指導補助者
2024 年度	141 名	51 名

### 4. 協力施設の概要 (R7.2 現在)

区分別科目の実習では、条件を満たす受講生の自施設を協力施設として申請し、自施設で実習を行うことができる研修体制・指導体制を調整した。

条件: 指導者となる医師の確保 (臨床研修医指導者講習会受講歴有)、実習期間の症例数の確保 (半期 10 症例以上)、医療安全体制の連携、学習環境の確保など

年度	協力施設	指導者
2024 年度	80 施設	375 名

※2024 年 11 月に本研修センターの在籍者が 2 年以上いない協力施設について、厚生労働省へ取り下げを行った。(取り下げ数: 協力施設 17 施設 指導者 71 名)

### 5. 特定行為研修センターの主な取り組み等

特定行為研修センターは、2020 年度から外科基本領域パッケージ、術中麻酔管理領域パッケージ、集中治療領域パッケージの 3 種類の領域パッケージが追加され、現在合計 20 特定行為区分、5 領域パッケージを開講している。

特定行為研修センターでは、開講時より以下の研修目的・目標を掲げ、研修を行っている。

#### 研修目的

地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成する。

#### 研修目標

- 1) 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
- 2) 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
- 3) 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養

う。

4) 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

2024 年度は、昨年度と同様に4月期・10 月期各定数 30 名(各特定行為区分の定数は、実習期間ごとに上限 5 名)の受講生を募集した。また、区分別科目の追加受講希望者を受け入れた。

募集に関する広報活動においては、大学附属病院 2 施設の看護部に直接募集に関する情報を提供した。また、例年通り、看護学部、看護学研究科の教育に関連している病院や施設、都道府県の看護協会に広報用のリーフレットを配布した。看護系雑誌や医学系新聞等への募集記事掲載も継続して実施した。学内に対しては入講式ならびに修了式に関する記事を学内広報誌に掲載し、活動状況等の周知を図った。

教育活動としては、一部の共通科目を除き、講義は学習支援システムとして Moodle を活用した。また、学習効果を高めるため、学習記録システムとして Mahara を用いて、受講計画立案・評価や日誌共有等を促した。また、新興感染症感染防止の観点から、来校および実習参加要件に加え、基本的な行動規範や体調報告等について明記した指針を状況に応じて設定し、周知した。

実習においては、共通科目は大学と附属両病院にて、区分別科目では附属病院に加え可能な限り受講生の自施設を協力施設として申請し、就労継続しながらの実習を可能とした。

附属病院の実習環境の整備としては、電子カルテ等の権限調整、各診療科への協力依頼、指導者・指導補助者への実習指導の依頼説明など随時関連部署と調整した。また、これまで通り、研修の質の向上のため、動脈血液ガス分析関連や PICC 関連、呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連などは、関連企業と連携した外部研修(対面もしくはリモート)を提供した。

2018 年度から実施している区分別科目の研修修了後のフォローアップ研修は継続して実施した。また、これまでと同様に、修了生への特定行為制度に関する情報提供、修了生間の情報提供、フォローアップの研修企画の案内、研修生の学会や依頼公演等のサポートを行った。

そのほか、他の指定研修機関の申請準備や研修教育の質問等に関しては、積極的に対応した。また、各種学会の学術集会やシンポジウム、都道府県行政からの説明会などの講演依頼は受けるようにし、修了生の講演依頼の推薦なども行い、本研修制度の普及に最大限努めた。さらに、修了生の活動の実態や評価につながる調査研究、指定研修機関の実態や課題への取り組みのための調査研究にも取り組んだ。

さらに、研修に関わる指導者の養成を行うために、年 2 回看護師特定行為研修指導者講習会を開催し、のべ 69 名が講習を修了した。指導者講習会修了者 69 名中、本研修センターの修了生が 14 名おり、今後本研修の実習指導及び観察評価試験(OSCE)の外部・内部評価者として、研修指導を担うことが期待される。

## 6. 入講生、修了生の概要

2024 年度はのべ 53 名が入講した。そのうち再入講者は 6 名であった。

(※再入講者:2 年の在籍期間を終え、再度入講した研修生)

### 1) 入講生の概要

2024 年度は 4 月期 19 名、10 月期 34 名が入講した。入講生の所属施設概要ならびに年代および性別を表 1・表 2 に示す。入講生の所属施設は「その他の病院」が 22 名と最も多く、次いで「訪問看護ステーション」が 10 名、「へき地医療拠点病院」および「その他」が 4 名であった。「自治医科大学附属病院」および「自治

医科大学附属さいたま医療センター」が 17 名入講した。入講生の年代は 30 代～40 代が約 8 割となり、全体の 7 割以上が女性を占めた。

入講時の区分別科目受講希望状況を表 3 に示す。「栄養・水分管理に係る薬剤投与関連」と「創傷管理関連」、「呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連」の受講希望が多かった。また、領域別パッケージの受講者数は、「在宅・慢性期領域パッケージ」が最も多く全体の約5割を占め、次に「術中麻酔管理領域パッケージ」「集中治療領域パッケージ」が多かった。

表 1 2024 年度の入講生の所属施設種別

施設種別	4 月期	10 月期	合計 (名)
自治医科大学附属病院	1	14	15
自治医科大学附属さいたま医療センター	0	2	2
看護学研究科	0	0	0
訪問看護ステーション	7	3	10
へき地診療所	0	0	0
へき地医療拠点病院	0	1	1
その他の病院	9	13	22
その他(障害者施設、特養、診療所、NPO 団体)	2	1	3
合計	19	34	53

表 2 2024 年度の入講生の年代および性別

年代	性別	4 月期	10 月期	男女別計	計	
20 代	男性	0	1	1	1	1.9%
	女性	0	0	0		
30 代	男性	2	4	6	22	41.5%
	女性	6	10	16		
40 代	男性	1	2	3	21	39.6%
	女性	5	13	18		
50 代	男性	1	1	2	9	17.0%
	女性	4	3	7		
合計	男性	4	8	12(22.6%)	53	100%
	女性	15	26	41(77.4%)		

表 3 2024 年度の入講生の区分別科目希望数

※入講時のデータであり、入講後の取り消し及び追加等は含まない

区分別科目名	4 月期	10 月期	計
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	3	1	4
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	2	2	4

呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	10	4	14
循環器関連	2	0	2
胸腔ドレーン管理関連	0	0	0
腹腔ドレーン管理関連	0	1	1
ろう孔管理関連	9	3	12
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	5	4	9
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	4	6	10
創傷管理関連	11	4	15
創部ドレーン管理関連	1	1	2
動脈血液ガス分析関連	3	5	8
透析管理関連	0	0	0
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	12	5	17
感染に係る薬剤投与関連	1	1	2
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	0	3	3
術後疼痛管理関連	0	0	0
循環動態に係る薬剤投与関連	2	0	2
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	0	1	1
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	1	0	1
計	66	41	107
在宅・慢性期領域パッケージ	7	3	10
外科術後病棟管理領域パッケージ	0	1	1
術中麻酔管理領域パッケージ	0	4	4
外科系基本領域パッケージ	0	1	1
集中治療領域パッケージ	2	3	5
計	9	12	21

## 2) 修了生の概要

2025年3月に修了した受講生の入講時の区分別科目希望数は66区分であったが、修了区分数は41区分であった。また、研修生が所属する自施設を協力施設として研修するものが増えつつある傾向にあった。協力施設での実習は、実習期間を長く確保できる利点があるが、その一方で、業務と実習を両立するための調整が重要であり、調整がうまく行くためには、研修生はもとより、研修生の所属する施設の看護管理者等の理解・支援が重要である。そこで、進捗状況等について把握できるよう定期的に連絡を取り合うなど協力施設の指導者・看護管理者との定期的な連絡体制を整えたり、遠隔会議での相談ができるようにしたりと、工夫をした。また、協力施設での実習での症例確保が困難な場合には、本センターにてシミュレーション症例を含め代替できる対策なども講じた。また、パッケージ受講者には、実習開始前から所属施設との勤務調整をすすめて、所属施設のフォロー体制を整えるようサポートした。

表4 2024年度の区分別科目修了数

区分別科目名	9月	3月	計
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	5	3	8
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	4	3	7
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	7	8	15
循環器関連	4	2	6
胸腔ドレーン管理関連	0	0	0
腹腔ドレーン管理関連	0	1	1
ろう孔管理関連	10	6	16
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	6	6	12
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	6	5	11
創傷管理関連	11	9	20
創部ドレーン管理関連	2	1	3
動脈血液ガス分析関連	12	2	14
透析管理関連	2	0	2
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	16	8	24
感染に係る薬剤投与関連	4	0	4
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	0	0	0
術後疼痛管理関連	3	0	3
循環動態に係る薬剤投与関連	7	2	9
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	1	0	1
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	1	1	2
計	101	57	158
在宅・慢性期領域パッケージ	7	4	11
外科術後病棟管理領域パッケージ	0	0	0
術中麻酔管理領域パッケージ	2	0	2
外科系基本領域パッケージ	3	0	3
集中治療領域パッケージ	1	2	3
計	13	6	19

## Ⅱ 看護師特定行為研修センター活動報告

# 1. 教育報告

## 共通科目

### (1).臨床推論/フィジカルアセスメント I

#### a. スタッフ

指導者	松村正巳 村上礼子 八木街子
指導補助者	佐々木彩加 村松真吾

#### b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程(フィジカルアセスメント含む)について学修する。

#### c. 時間数

34 時間

#### d. 研修方法

講義(eラーニング)

#### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

#### f. 科目取得状況

47 名

### (2).臨床推論/フィジカルアセスメント II

#### a. スタッフ

指導者	松村正巳 村上礼子 八木街子
指導補助者	佐々木彩加 村松真吾

#### b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

#### c. 時間数

26 時間

#### d. 研修方法

講義(eラーニング)

#### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

#### f. 科目取得状況

45 名

### (3).病態生理/疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者	倉科智行 関山友子
指導補助者	平尾温司 八木街子

b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

c. 時間数

29 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

46 名

**(4).病態生理／疾病論Ⅱ**

a. スタッフ

指導者	倉科智行 関山友子
指導補助者	平尾温司 八木街子

b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的に迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

c. 時間数

32 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

45 名

**(5).臨床薬理学**

a. スタッフ

指導者	今井靖 大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	大友慎也 佐々木彩加 八木街子

b. 学習目的

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上

を図るための知識と技術を学ぶ。  
代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

- c. 時間数  
42 時間
- d. 研修方法  
講義(eラーニング)
- e. 評価方法  
单元ごとに事後テストを行い、100 点満点をもって、次の单元に進む。  
最終单元修了後、修了試験(筆記試験)を受験する。修了試験は 100 点満点で、60 点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。
- f. 科目取得状況  
44 名

## (6).医療安全学

- a. スタッフ

指導者	新保昌久 斉藤正昭 村上礼子 川上勝 八木街子
指導補助者	関山友子 浅田義和 亀森康子 飯田久子

- b. 学習目的  
安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。
- c. 時間数  
10 時間
- d. 研修方法  
講義(eラーニング)、演習
- e. 評価方法  
筆記試験(最終回)  
小テストまたは課題レポート(各回)
- f. 科目取得状況  
46 名

## (7).特定行為と手順書

- a. スタッフ

指導者	新保昌久 村上礼子 佐々木彩加
指導補助者	関山友子 福田順子 八木街子

- b. 学習目的  
多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。
- c. 時間数  
14 時間

d. 研修方法  
講義(eラーニング)

e. 評価方法  
筆記試験

f. 科目取得状況  
46名

#### (8).特定行為と基礎実習 I

a. スタッフ

指導者	松村正己 白石裕子 森壘 大塚公一郎 倉科智行 村上礼子 八木街子 佐々木彩加
指導補助者	関山友子 浅田義和 大友慎也 村松真吾

b. 学習目的  
チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

c. 時間数  
38時間

d. 研修方法  
講義(eラーニング)

e. 評価方法  
eラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。  
集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

f. 科目取得状況  
43名

#### (9).特定行為基礎実習 II

a. スタッフ

指導者	松村正己 石川鎮清 畠山修司 松山泰 石川由紀子 山本祐 白石裕子 神谷尚子 神田直樹 中村香代子 渡辺智洋(4月期) 新保昌久 石澤彩子 山本翔太郎 岡田昌浩 山内浩義 藤本茂(10月期) 阿南悠平(10月期) 倉科智行 斉藤正昭 菅原斉 福地貴彦 藤田英雄 崎山快夫 眞嶋浩聡 賀古真一 原一雄 吉田昌史 森下義幸 山口泰弘 長嶋孝夫 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	亀森康子 村松真吾

b. 学習目的  
チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

c. 時間数  
25 時間

d. 研修方法  
実習

e. 評価方法  
観察評価:病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

f. 科目取得状況  
43 名

## 2. 区分別科目

### (10).呼吸器関連 気道確保 I

#### a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 竹内護 堀田訓久 島田宣弘 多賀直行 方山真朱 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	石田優巳 可香圭子 関野亜矢子 荒井和美 遠藤沙希 吉田直人 草浦理恵 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 古島幸江 村松真吾

#### b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

7時間

#### d. 研修方法

講義(eラーニング)

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

8名

### (11).呼吸器関連 気道確保 II

#### a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 竹内護 堀田訓久 島田伸弘 多賀直行 方山真朱 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	石田優巳 可香圭子 関野亜矢子 荒井和美 遠藤沙希 吉田直人 草浦理恵 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 古島幸江 村松真吾

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク(BVM)を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 修了条件症例数

5症例

#### d. 研修方法

実習

#### e. 評価方法

実技試験(OSCE)、観察評価

#### f. 科目取得状況

8名

## (12).呼吸器関連 人工呼吸療法 I

### a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 大谷啓介 檜垣鮎帆 山内浩義 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 方山真朱 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	石田優己 可香圭子 関野亜矢子 宇野智仁 荒井和美 遠藤沙希 吉田直人 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 草浦理恵 古島幸江 村松真吾

### b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。  
チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

29 時間

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

7 名

## (13).呼吸器関連 人工呼吸療法 II

### a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 大谷啓介 檜垣鮎帆 山内浩義 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 方山真朱 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	石田優己 可香圭子 関野亜矢子 宇野智仁 荒井和美 遠藤沙希 吉田直人 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 草浦理恵 古島幸江 村松真吾

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### c. 修了条件症例数

20 症例

### d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法  
観察評価

f. 科目取得状況  
7名

#### (14). 呼吸器関連 長期呼吸療法

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 西野宏 伊藤真人 金澤丈治 島田茉莉 野澤美樹 橋本研 馬場勝尚 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 山内浩義 喜田幸子 方山真朱 吉田尚弘 鈴木政美 金沢弘美 民井智 澤允洋 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 村松真吾 八木街子
指導補助者	黒田光恵 齊藤由香里 石田優己 草浦理恵 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 渡邊賢治

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数  
8時間

d. 研修方法  
講義、実習

e. 評価方法  
筆記試験、実技試験（OSCE）、観察評価

f. 科目取得状況  
15名

#### (15). 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS等) I

a. スタッフ

指導者	清水勇人 原田顕治 齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 多賀直行 藤田英雄 坂倉建一 谷口陽介 牧尚孝 陣内博行 讚井將満 方山真朱 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	神山淳子 中川温美 草浦理恵 小久保領 古島幸江 村松真吾

b. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数  
20時間

d. 研修方法  
講義(eラーニング)

e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

6名

(16).循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS等)Ⅱ

a. スタッフ

指導者	清水勇人 原田顕治 齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 多賀直行 藤田英雄 坂倉建一 谷口陽介 牧尚孝 陣内博行 讃井将満 方山真朱 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	神山淳子 中川温美 草浦理恵 小久保領 古島幸江 村松真吾

b. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

6名

(17).胸腔ドレーン管理関連Ⅰ

a. スタッフ

指導者	齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 坪地宏嘉 金井義彦 清水敦 遠藤俊輔 峯岸健太郎 曾我部将哉(4月期) 白石学 岡村誉 村上礼子 八木街子
指導補助者	富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加 渡邊賢治 村松真吾

b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する  
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

c. 時間数

13時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

0名

## 胸腔ドレーン管理関連Ⅱ

### a. スタッフ

指導者	齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 坪地宏嘉 金井義彦 清水敦 遠藤俊輔 峯岸健太郎 曾我部将哉(4月期) 白石学 岡村誉 村上礼子 八木街子
指導補助者	富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加 渡邊賢治 村松真吾

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。  
低圧胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### c. 修了条件症例数

5 症例

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

0 名

## 腹腔ドレーン管理関連Ⅰ

### a. スタッフ

指導者	清水敦 東條峰之 利府数馬 藤原寛行 種市明代 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 八木街子
指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加 渡邊賢治 村松真吾

### b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

### c. 時間数

8 時間

### d. 研修方法

講義(eラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

1 名

## 腹腔ドレーン管理関連Ⅱ

### a. スタッフ

指導者	清水敦 東條峰之 利府数馬 藤原寛行 種市明代 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 八木街子
-----	---

指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加 渡邊賢治 村松真吾
-------	--

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

1 名

### ろう孔管理Ⅰ

a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 東條峰之 利府数馬 馬場勝尚 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	黒田光恵 山越裕美 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 島田裕子 村松真吾

b. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

16 名

### ろう孔管理Ⅱ

a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 東條峰之 利府数馬 馬場勝尚 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	黒田光恵 山越裕美 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 島田裕子 村松真吾

b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

実技試験(OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況

16 名

### ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅲ

a. スタッフ

指導者	藤村哲也 安東聡 宮川友明 齊藤公俊 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	山越裕美 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 田村敦子 村松真吾

b. 学習目的

1. ろう孔造設に関連する病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

16 名

### ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅳ

a. スタッフ

指導者	藤村哲也 安東聡 宮川友明 齊藤公俊 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	山越裕美 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 田村敦子 村松真吾

b. 学習目的

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技評価(OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況

16名

**栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 I**

a. スタッフ

指導者	齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 清水敦 東條峰之 利府数馬 讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 方山真朱 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太朗 森仁志 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	神山淳子 齋藤由香里 曾篠有里 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 村松真吾

b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

c. 時間数

7時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

12名

**栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 II**

a. スタッフ

指導者	齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 清水敦 東條峰之 利府数馬 讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 方山真朱 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太朗 森仁志 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	神山淳子 齋藤由香里 曾篠有里 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 村松真吾

b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

12 名

### PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 I

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 大嶺謙 皆方大佑 清水敦 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 賀古真一 吉野望 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 佐々木彩加 村松真吾 八木街子
指導補助者	齋藤由香里 曾篠有里 森山海美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷川直人

b. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入の根拠と方法を学習する。

c. 時間数

6 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

11 名

### PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 II

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 大嶺謙 皆方大佑 清水敦 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 賀古真一 吉野望 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 佐々木彩加 村松真吾 八木街子
指導補助者	齋藤由香里 曾篠有里 森山海美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷川直人

b. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技評価(OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況

11名

**創傷管理関連 褥瘡 I**

a. スタッフ

指導者	小宮根真弓 須永中 山本直人 前川武雄 太田信子 田口深雪 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 村松真吾 八木街子
指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 石井容子

b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態からの的確に判断するための根拠と方法を学習する。

c. 時間数

24時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

27時間(14回)

f. 科目取得状況

20名

**創傷管理関連 褥瘡 II**

a. スタッフ

指導者	小宮根真弓 須永中 山本直人 前川武雄 太田信子 田口深雪 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 村松真吾 八木街子
指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 石井容子

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

講義(eラーニング)、実習

e. 評価方法

OSCE(壊死組織除去のみ)、観察評価(壊死組織除去、陰圧閉鎖療法)

f. 科目取得状況

20名

## 創部ドレーン管理関連 I

### a. スタッフ

指導者	清水敦 東條峰之 利府数馬 北山丈二 原尾美智子 櫻木雅子 齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 金井義彦 伊藤真人 金澤丈二 西野宏 島田茉莉 野澤美樹 橋本研 藤原寛行 種市明代 竹下克志 井上泰一 樋山秀平 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 白石学 岡村誉 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 八木街子
指導補助者	曾篠有里 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加

### b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

### c. 時間数

5 時間

### d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

3 名

## 創部ドレーン管理関連 II

### a. スタッフ

指導者	清水敦 東條峰之 利府数馬 北山丈二 原尾美智子 櫻木雅子 齊藤翔吾 堀越峻平 土井真之 清水圭祐 金井義彦 伊藤真人 金澤丈二 西野宏 島田茉莉 野澤美樹 橋本研 藤原寛行 種市明代 竹下克志 井上泰一 樋山秀平 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 白石学 岡村誉 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 村上礼子 八木街子
指導補助者	曾篠有里 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加

### b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

### c. 修了条件症例数

5 症例

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

3 名

## 動脈血液ガス分析 I

### a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 清水敦 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 山内浩義 方山真朱 飯塚悠祐 大塚裕史 遠藤俊輔 峯岸健太郎 曾我部将哉(4月期) 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太 朗 森仁志 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	石田優己 宇野智仁 可香圭子 関野亜矢子 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 古島幸江 村松真吾

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

11 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

14 名

## 動脈血液ガス分析Ⅱ

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将眞 鷹栖相崇 清水敦 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 山内浩義 方山真朱 飯塚悠祐 大塚裕史 遠藤俊輔 峯岸健太郎 曾我部将哉(4月期) 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太 朗 森仁志 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	石田優己 宇野智仁 可香圭子 関野亜矢子 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 古島幸江 村松真吾

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技試験(OSCE)・観察評価

f. 科目取得状況

14 名

## 透析管理Ⅰ

### a. スタッフ

指導者	秋元哲 讃井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰祐 睦好祐子 村上礼子
指導補助者	富田みずの 時任美穂 加藤恵美 内田隆行 松岡諒 長谷川直人 八木街子

### b. 学習目的

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

### c. 時間数

11 時間

### d. 研修方法

講義(eラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

2 名

## 透析管理Ⅱ

### a. スタッフ

指導者	秋元哲 讃井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰祐 睦好祐子 村上礼子
指導補助者	富田みずの 時任美穂 加藤恵美 内田隆行 松岡諒 長谷川直人 八木街子

### b. 学習目的

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

### c. 修了条件症例数

5 症例

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

2 名

## 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整Ⅰ

### a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 東條峰之 利府数馬 長田太助 岡健太郎 畠山修司 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 讃井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研
-----	---

	今長谷尚史 佐多奈歩 山内浩義 賀古真一 吉野望 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 方山真朱(10 月期) 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	釜井聡子 荒川昌史(4 月期) 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 井上育子 村松真吾

b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

c. 時間数

8 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

24 名

**栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II**

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 東條峰之 利府数馬 長田太助 岡健太郎 畠山修司 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 讚井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 山内浩義 賀古真一 吉野望 力山敏樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 方山真朱(10 月期) 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	釜井聡子 荒川昌史(4 月期) 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 井上育子 村松真吾

b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

24 名

**脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) I**

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 東條峰之 利府数馬 長田太助 岡健太郎 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 畠山修司 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 讚井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 山内浩義 森下義幸
-----	---

	大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰佑 睦好祐子 大塚祐史 飯塚悠祐 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太郎 森仁志 方山真朱(10 月期) 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	釜井聡子 荒川昌史(4 月期) 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 井上育子 村松真吾

b. 学習目的

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

c. 時間数

8 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

24 名

**脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) II**

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 東條峰之 利府数馬 長田太助 岡健太郎 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 畠山修司 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 讚井將満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 山内浩義 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰佑 睦好祐子 大塚祐史 飯塚悠祐 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太郎 森仁志 方山真朱(10 月期) 村上礼子 川上勝 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	釜井聡子 荒川昌史(4 月期) 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 井上育子 村松真吾

b. 学習目的

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

24 名

**感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)**

a. スタッフ

指導者	畠山修司 石岡春彦 南建輔 福地貴彦 守谷俊 柏浦正広 田村洋行
-----	----------------------------------

	岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太郎 森仁志 方山真朱 (10月期) 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	阿部奈美 大友慎也 木村由美子 水上由美子 長谷部忠史 立石直人 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 角川志穂 谷田部典子

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

29 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)、演習

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

4 名

**感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)**

a. スタッフ

指導者	畠山修司 石岡春彦 南建輔 福地貴彦 守谷俊 柏浦正広 田村洋行 岸原悠貴 富永経一郎 平良悠 安田英人 新里祐太郎 森仁志 方山真朱 (10月期) 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	阿部奈美 大友慎也 木村由美子 水上由美子 長谷部忠史 立石直人 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 角川志穂 谷田部典子

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

4 名

**インスリン投与量の調整 I**

a. スタッフ

指導者	矢作直也 武井暁一 武井祥子 原一雄 吉田昌史 村上礼子 長谷川直人
指導補助者	新井茉美 石田優己 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加 八木街子

b. 学習目的

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

c. 時間数

16 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

0 名

### インスリン投与量の調整 II

a. スタッフ

指導者	矢作直也 武井暁一 武井祥子 原一雄 吉田昌史 村上礼子 長谷川直人
指導補助者	新井茉美 石田優己 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加 八木街子

b. 学習目的

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価、課題レポート

f. 科目取得状況

0 名

### 術後疼痛管理関連

a. スタッフ

指導者	竹内護 堀田訓久 島田宜弘 坪地宏嘉 金井義彦 細谷好則 清水敦 東條峰之 利府数馬 遠藤俊輔 峯岸健太郎 曾我部将哉(4 月期) 力山敏 樹 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 鈴木浩一 大塚祐史 飯塚悠祐 讚井將 満 方山真朱(10 月期) 村上礼子 八木街子
指導補助者	可香圭子 関野亜矢子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

8 時間

d. 研修方法  
講義 (e ラーニング)

e. 評価方法  
筆記試験

f. 科目取得状況  
3 名

**持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 I**

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 清水勇人 原田顕治 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 多賀直行 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将真 鷹栖相崇 藤田英雄 坂倉建一 谷口陽介 牧尚孝 陣内博行 方山真朱 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	神山淳子 可香圭子 関野亜矢子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 遠藤沙希 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 村松真吾

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

c. 時間数  
28 時間

d. 研修方法  
講義 (e ラーニング)

e. 評価方法  
筆記試験

f. 科目取得状況  
9 名

**持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 II**

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 清水勇人 原田顕治 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 竹内護 堀田訓久 島田宜弘 多賀直行 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 田中保平 藤屋将真 鷹栖相崇 藤田英雄 坂倉建一 谷口陽介 牧尚孝 陣内博行 方山真朱 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 佐々木彩加 八木街子
指導補助者	神山淳子 可香圭子 関野亜矢子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 遠藤沙希 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 村松真吾

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

9 名

### 精神科薬物療法と看護 I (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	須田史朗 塩田勝利 西依康 稲川優多 佐藤謙伍 岡田剛史 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 讃井将満 塩塚潤二 岡島美朗 齊藤慎之介 方山真 朱 崎山快夫 堤内路子 草鹿元 伊古田雅史 大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 永井優子 路川達阿起 村松真吾 八木街子

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

c. 時間数

26 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

最終回の筆記試験で 60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。(ルーブリック参照)

f. 科目取得状況

1 名

### 精神科薬物療法と看護 II (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	須田史朗 塩田勝利 西依康 稲川優多 佐藤謙伍 岡田剛史 川合謙介 大谷啓介 檜垣鮎帆 讃井将満 塩塚潤二 岡島美朗 齊藤慎之介 方山真 朱 崎山快夫 堤内路子 草鹿元 伊古田雅史 大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 永井優子 路川達阿起 村松真吾 八木街子

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断ができる。

c. 修了条件症例数

## 5 症例

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

4/5 以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する(ルーブリック参照)。

### f. 科目取得状況

1 名

## 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 I

### a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 皆方大佑 小宮根真弓 山口博紀 藤井博文 大澤英之 藤原寛行 種市明代 山内浩義 賀古真一 吉野望 鈴木浩一 前川武雄 村上礼子 佐々木彩加
指導補助者	飯塚由美子 山本真由美 奥田泰考 長谷部忠史 森山海美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 小原泉 八木街子

### b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

17 時間

### d. 研修方法

講義(e ラーニング)

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

2 名

## 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 II

### a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 皆方大佑 小宮根真弓 山口博紀 藤井博文 大澤英之 藤原寛行 種市明代 山内浩義 賀古真一 吉野望 鈴木浩一 前川武雄 村上礼子 佐々木彩加
指導補助者	飯塚由美子 山本真由美 奥田泰考 長谷部忠史 森山海美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 小原泉 八木街子

### b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

### c. 修了条件症例数

5 症例

### d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

2名

## 研究報告

### ・論文

1. 村上 礼子:老年医学の展望 在宅医療における訪問看護師による特定行為の現状と展望(解説). 日本老年医学会雑誌;61(4),p393-400,2024.
2. 村上 礼子:【医師の働き方改革と集中治療】集中治療に係るタスク・シフト/シェアに関する安全管理指針 安全な看護師の業務拡大に向けて(解説). ICUとCCU:48(8),p441-445,2024.
3. 寺裏 寛之, 中村 晃久, 村上 礼子, 春山 早苗, 小谷 和彦:へき地医療における糖尿病ケアと特定行為研修修了看護師(解説). 日本糖尿病インフォマティクス学会誌;23,p27-31,2024.

### ・学会発表

1. 村松 真吾, 川原 千香子, 渡部 みずほ, 佐々木 彩加, 八木 街子:スコーピングレビューを用いた特定行為の活動報告に関する年次比較. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市, 2024 年 12 月.
2. 川原 千香子, 渡部 みずほ, 村松 真吾, 佐々木 彩加, 八木 街子:認定看護師・診療看護師による特定行為実践の現状. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市, 2024 年 12 月.
3. 長谷川 直人, 村上 礼子, 川上 勝, 古島 幸江:看護師による医行為の実施に関する調査報告(第 2 報) 特定行為の実施状況と委譲意向の実態ならびに 2010 年度調査結果との比較. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本市, 2024 年 12 月.
4. 川上 勝, 村上 礼子, 長谷川 直人:看護師による医行為の実施に関する調査報告(第 1 報) 特定行為研修制度施行前調査との比較, 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 熊本市, 2024 年 12 月.
5. 池田 里美, 村上 礼子, 長谷川 直人:訪問看護における特定行為研修修了看護師の特定行為実践の開始に向けた体制づくり. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 熊本市, 2024 年 12 月.
6. 浅田 義和, 八木 街子:動画録画を含めたシミュレーション教育の学習分析を行う際の方法と課題: 特定行為研修での検討, 第 12 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会. 松山市, 2024 年 11 月.
7. 八木 街子, 佐々木 彩加, 村松 真吾, 浅田 義和, 村上 礼子: 自己調整学習傾向と自己学習シミュレーション教材の利用の関係性, 第 12 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会. 松山市, 2024 年 11 月.
8. Yagi MS: Self-Regulated Learning Tendencies Among Nurses Post-Distance Learning, The Association for Medical Education in Europe 2024. Basel, 2024 年 8 月.

9. 八木 街子:看護教育と Technology-Enhanced Learning. 第 29 回聖路加看護学会学術大会, 東京都, 2024 年 9 月.
10. Yagi MS: Factors facilitating independent training using human patient simulators for nursing students, 7th International Conference on Nursing Science & Practice. Online, 2024 年 4 月
11. 石田 優己, 村上 礼子: 特定行為看護師による診療の補助の一例. 第 51 回日本集中治療医学会, 札幌市, 2024 年 3 月.
12. 石田 優己, 村上 礼子:高度肥満で不安が強い患者への特定行為看護師による人工呼吸器離脱支援. 第 51 回日本集中治療医学会, 札幌市, 2024 年 3 月.
13. 鈴木 祥子, 倉科 憲太郎, 山越 裕美, 八木 街子, 佐々木 彩加, 川上 勝, 村上 礼子, 清水 敦, 佐田 尚宏:特定行為看護師による胃瘻交換 本学付属病院における活動実績と今後の展望. 第 28 回 PEG・在宅医療学会学術集会. 別府市, 2024 年 9 月.

#### ・競争的研究資金

1. 永井良三(研究代表), 村上礼子, 川上勝, 前原正明, 見城明, 飯室聡: 看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究、厚生労働科学研究費助成金(地域医療基盤開発推進研究事業), 2023- 2024 年度.